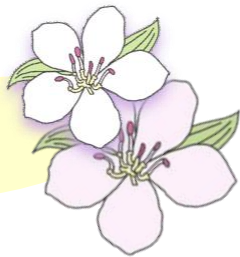




センターTOPICS



令和7年2月6日

近自然工法による指定ルート整備

1月21日～1月27日に母島、1月29日～2月13日に父島において小笠原村主催による指定ルート整備が行われており、小笠原総合事務所国有林課及び当センターも作業に協力しました。

小笠原村では毎年北海道から山岳整備のプロをお招きして、近自然工法による遊歩道整備事業を実施しています。近自然工法は、自然界の材料を施工に取り入れ生態系を復元させる方法です。

今回は、常世の滝～ガジュマル林ルートにおいて、傾いている固有種のオガサワラビロウ（通称：ゾウの鼻）がこれ以上倒れないよう歩道の嵩上げを行い、スロープ状にしました。これにより、通行の支障となっていたオガサワラビロウを伐採することなく生かすことができました。



ゾウの鼻と呼ばれているオガサワラビロウ（固有種）



背負子で石を運ぶ森所長



ビロウに乗らないようスロープをつけました。



二日かかりでスロープが完成しました。